

ご担当者様

2025年4月4日  
アイサップ  
(認定)特定非営利活動法人ISAPH

## 久留米市発！ISAPH×JICA九州 ラオス農村部のお母さんと子どものための国際協力 「サービス受益者の行動選択に働きかける誰ひとり取り残さない母子継続ケア支援事業」 が JICA 草の根技術協力事業(パートナー型)に採択されました！

(認定)特定非営利活動法人 ISAPH(福岡県久留米市)は、ラオス人民民主共和国カムアン県サイブートン郡にて母子保健活動を行っている NPO 団体です。

ラオスでは乳幼児や妊産婦の死亡率が日本の 20-30 倍と高い現状があります。それにもかかわらず、農村部では母子保健サービスの利用が進んでいません。今回採択された本事業では、人々の意思決定や行動の傾向を科学的に分析し、自然と望ましい健康行動を選びたくなるよう環境を整えることで、お母さんと子どもたちが健診や病院での出産をしやすくなるよう後押しします。これにより妊産婦と乳幼児の命を守る持続可能な仕組みの構築を図ります。

### <本事業のポイント>

#### ①家族との約束

ラオスの家庭では、義母や義父などの年長家族の意思決定を尊重するという慣習があります。この慣習を利用し、出産計画の段階で、義母や配偶者と「病院で出産してほしい」といった約束を引き出すことで、家族内での合意を形成し、施設分娩を後押しします。



義母とともに出産計画を作成する妊婦



妻の出産予定日を気にかける夫

#### ②社会規範(当たり前)の呼びかけ

「人は周囲の行動に影響されやすい」という特性を活かし、健康意識の高い地域では「多くの妊婦が病院で出産している」という“当たり前”を呼びかけたり、安心して出産できた体験を妊婦自身が口コミで広めたりすることで、地域全体に望ましい健康行動を促します。



村人に「当たり前」を呼びかける助産師



施設分娩を口コミで広める妊婦

### ③日本への還元

人々の行動特性に寄り添った環境を整えることで、望ましい健康行動を促す手法は「わかっているのに行動できない」人にも効果的です。得られた知見は、日本のがん検診受診率の向上や在留外国人の医療アクセス改善などにも応用可能で、国際協力を通じた学びの還元を目指します。

#### <事業概要>

- (1) 事業名: 草の根技術協力事業『サービス受益者の行動選択に働きかける誰ひとり取り残さない母子継続ケア支援事業』
- (2) 事業目的: 保健医療サービスの利用が限定的な農村地域において、妊産婦および乳幼児が継続的に必要なケアを受けられるよう、住民の行動選択に働きかける手法を活用し、地域主導の母子継続ケア体制を構築。
- (3) 対象地: ラオス国カムアン県サイブートン郡
- (4) 事業期間(予定): 2026年1月～2028年12月
- (5) 事業実施団体: (認定)特定非営利活動法人 ISAPH
- (6) 相手国実施機関: カムアン県保健局(ラオス保健省)

#### <本件に関するお問合せ>

団体名: (認定)特定非営利活動法人 ISAPH(アイサップ) 担当: 村上/安東

所在地: 【福岡事務所】福岡県久留米市津福本町 422 社会医療法人雪の聖母会聖マリア病院対外協力室内

公式HP: <https://isaph.jp/>

E-mail: [jimukyoku@isaph.jp](mailto:jimukyoku@isaph.jp)

Tel: 03-3593-0188

#### <団体概要>

ISAPH(アイサップ)は、2004年7月に福岡県久留米市の聖マリア病院が母体となり設立されたNPO団体です。開発途上国(東南アジア:ラオス人民民主共和国、アフリカ:マラウイ共和国)にて母子を対象とした保健医療協力を実施しています。

物を与えるだけの支援ではなく、ISAPHがいなくなったあとも住民たちの力でよりよい暮らしを目指していける力をつけられるよう、現地の人々の暮らしに寄り添った、持続可能な支援を実施しています。